

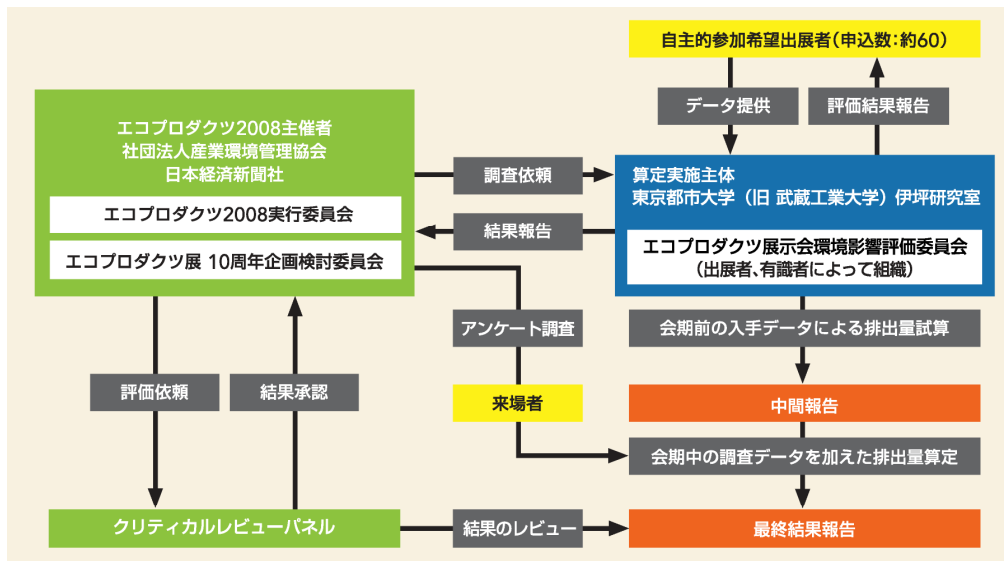
## 「エコプロダクツ2008におけるCO<sub>2</sub>排出量測定調査」調査報告書(簡易版)

### 1. 成果の公開にあたって

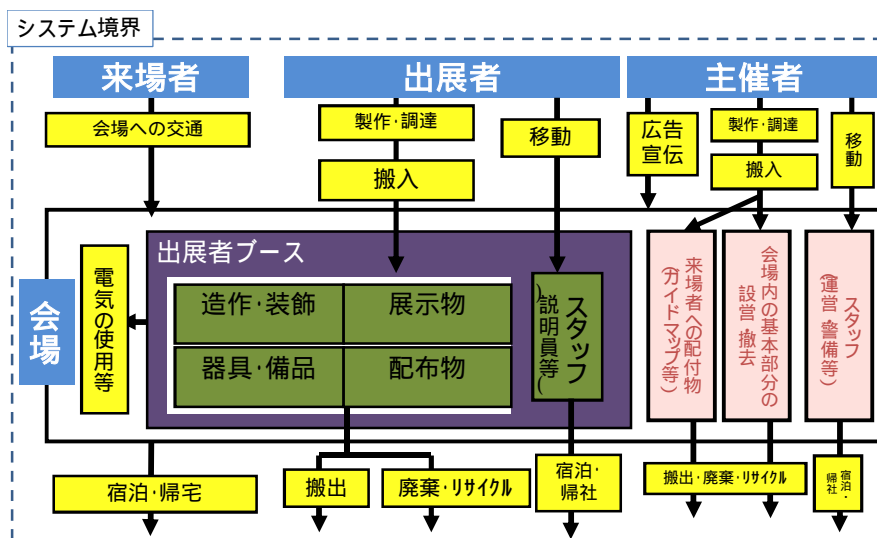
本調査はエコプロダクツ展示会からのCO<sub>2</sub>排出量の継続的な削減を目的に展示会の主催者である社団法人産業環境管理協会と日本経済新聞社が東京都市大学(調査実施時は武蔵工業大学)環境情報学部准教授伊坪徳宏氏に調査を依頼し、エコプロダクツ2008におけるCO<sub>2</sub>排出量測定調査として実施したものです。本調査は展示会の全構成要素を対象にした評価事例としては展示会分野での初の試みとなります。

なお、排出量の測定を行う場合、測定条件などによって結果が異なる場合があります。

### 2. 調査の実施体制

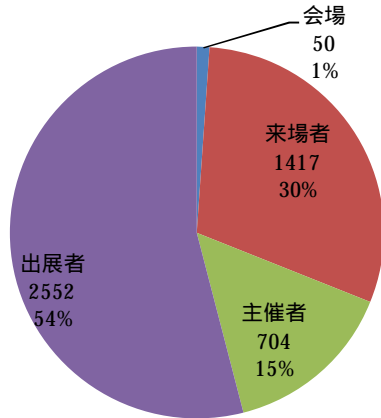


### 3. 調査の対象範囲



#### 4. 調査結果

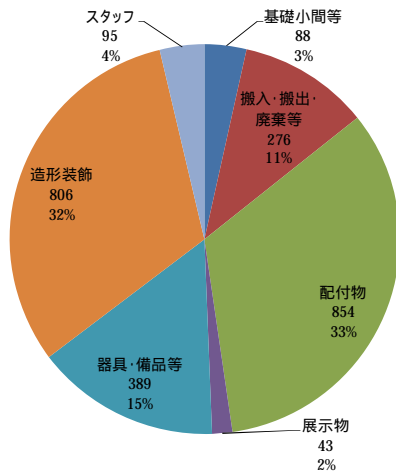
##### CO<sub>2</sub> 総排出量の(4723トン)の内訳



エコプロダクツ 2008 の総 CO<sub>2</sub> 排出量は 4,723t-CO<sub>2</sub> でした。出展者に係る排出量がおよそ半分を占める結果となりました。

来場者や主催者の活動に伴う排出量も割合としては大きい中で会場での電力消費等に伴う排出量の寄与は 1%にとどまりました。

##### 出展者起因の CO<sub>2</sub> 排出量(2552トン)の内訳

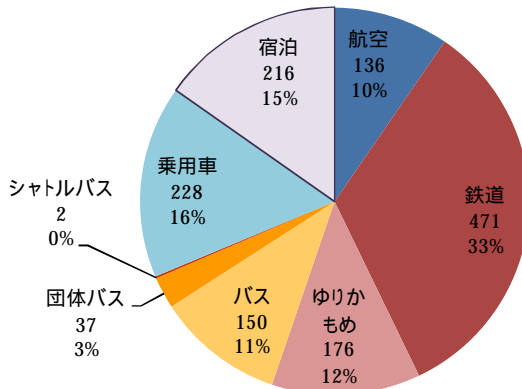


出展者の活動に起因する排出量は、配付物、造形装飾、器具・備品等及び搬入・搬出・廃棄などに関連して発生する CO<sub>2</sub> が主要な要素であることが分かりました。

##### 【CO<sub>2</sub> 排出量削減のポイント】

なるべく環境負荷の低い配布物に変更する必要があります。  
配布物の電子媒体で提供するなどの工夫が必要です。  
造形装飾物のリサイクル、リユースを推進する必要があります。  
ブースの省エネを推進する必要があります。  
照明を極力減らす工夫をすることで会場の電力使用による排出量を削減することもできます。

##### 来場者起因の CO<sub>2</sub> 排出量(1417トン)の内訳

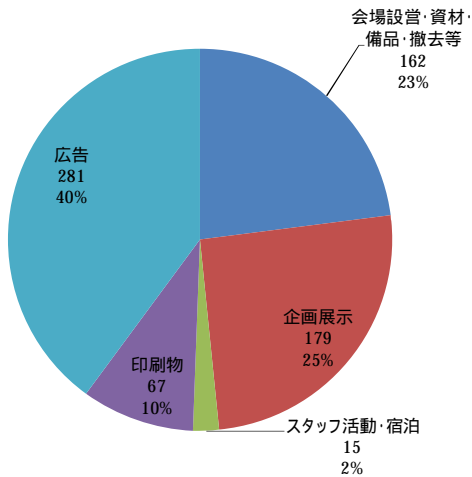


来場者の排出割合では、利用する人数が多いことから鉄道利用時の排出量が最も多くなりましたが、乗用車や航空の利用も一定の排出割合で排出されていることが分かりました。

##### 【CO<sub>2</sub> 排出量削減のポイント】

公共交通機関の利用を促進する必要があります。  
利用率の低い乗用車、航空からの CO<sub>2</sub> 排出量も相対的には大きく、遠方からの自家用車を使った来場をなるべく控えてもらうことが CO<sub>2</sub> 削減には有効です。  
遠方からのバス利用者には、鉄道を勧めることも有効です。  
シャトルバスや送迎バスの実燃費を把握した上で、燃費のいい車両の使用を検討することも必要です。

### 主催者起因の CO<sub>2</sub> 排出量(704トン)の内訳

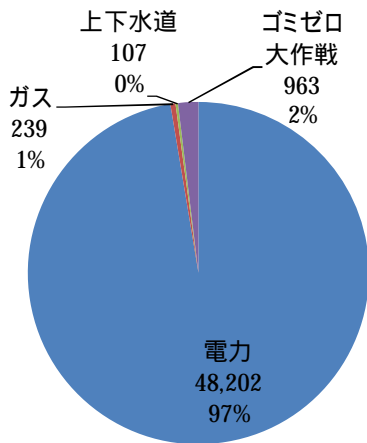


主催者に起因する排出量では、印刷物以外は価格を基準に算定を行った結果、広告活動、主催者自身の企画展示、会場設営等の排出割合が大きかったです。

#### 【CO<sub>2</sub> 排出量削減のポイント】

来場者への案内方法も検討することが期待されます。  
出展者の排出量の見える化の促進、良好事例の表彰など出展者の負荷量の削減を促す取組みを進めていく必要があります。  
リサイクル・プログラムや環境配慮素材の利用等の展示会の環境配慮対策メニューを拡充する必要があります。

### 会場起因の CO<sub>2</sub> 排出量(50トン)の内訳



会場に起因する排出量の内訳は、そのほとんどが電力の使用によって発生する CO<sub>2</sub> であることが分かりました。

#### 【CO<sub>2</sub> 排出量削減のポイント】

多くの展示者が LED を利用するなど電力消費の低減に努力した結果が表れています。